

2013年(平成25年)

1月9日

水曜日



岐阜大など脊髄損傷治療

歯の細胞から培養

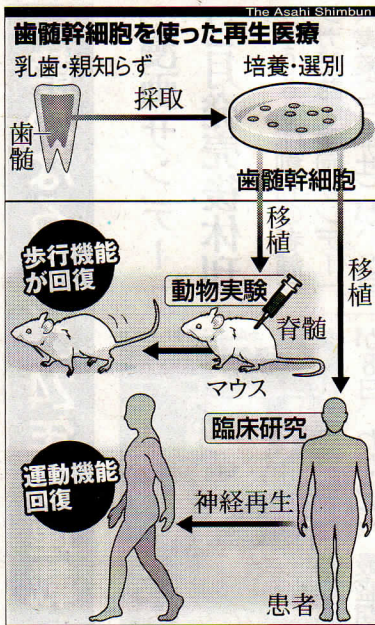
国内初臨床申請へ

岐阜大と岐阜薬科大の研究チームが、歯から取り出した歯髄幹細胞を脊髄損傷患者に移植して機能を回復させる臨床研究に乗り出す。夏にも岐阜大の倫理審査委員会に研究計画を申請

し、倫理委と国が承認すれば、歯髄幹細胞を使った国内初の臨床応用となる。乳歯や親知らずの中にある歯髄幹細胞は、骨髄から幹細胞を取り出す方法より数が確保しやすい。増殖が

早く、骨や神経細胞に分化する能力も高いとされる。今回の研究で使われる歯髄幹細胞は拒絶反応の起きにくい特殊な白血球型で、

数百人から数万人に一人しか見つからないもの。岐阜大大学院医学系研究科で再生医療に取り組む手塚建一准教授が採取し、大量培



養に成功した。岐阜薬科大のラットを使った実験で、この幹細胞を損傷のあった部分に移植したところ、15匹のうち約半数が7週間程度で歩けるようになるなど効果が確認できたという。臨床研究は、交通事故やスポーツ事故で脊髄を損傷した直後の患者が対象。拒絶反応や副作用の有無を検証する。研究開始は2016年を目指し、年間10人程度に移植する計画だ。手塚准教授は「指一本でも動けば、パソコン操作ができるなど、患者の生活の質の向上につながる。移植後1年以内で効果の有無が分かるはず」と話す。NPO法人「日本せきすい基金」(事務局・東京都府中市)によると、国内の患者は約10万人という。(志村英司)